

兵庫県こころのケアセンター 18年度外部評価委員会業績評価(総合評価)

コメント

- ① 「こころのケア」に関する全国の拠点施設として、多面的な活動が継続され、3年間フル回転してきたことを高く評価したい。
- ② 全国的にも、診療・相談・研修・広報の機能をもつトラウマ専門機関は、本センターのみであり、高度な専門的援助と情報を発信しており、非常に高く評価できる。
- ③ 国内外の自然災害や国内の事件・事故に伴う被害者の支援は、今後ますます効率的に実施することが求められよう。したがって、こころのケアセンターの存在意義はより重要なものとなる。
- ④ 研修や臨床活動は未開拓の分野であるだけに、基盤を築き、社会からの定評を得ることが必要である。今後の活動を継続されることを望む。特に災害分野においては、こころのケアセンターは、日本で最も経験の深い機関といえようが、今後もその指導とともに、日常の「被害者のケア」即ち、犯罪や虐待被害者のケアに関しても指導性を発揮していただきたい。
- ⑤ 震災後11年経っての地域研究等はユニークで価値のあるものである。ただし、それぞれの研究評価において「発表」の部分が相対的に低くなっている傾向がある。多彩な事業や、その報告等で余力がないとも考えられ、何らかの選択と集中があってもよいかもしれない。マンパワーの充実が望まれる。国際貢献や Website の充実は将来的に重要であると思う。
- ⑥ 今後、常勤医師や臨床心理士などの相談員の確保に努めてほしい。どのようにすれば、スタッフを確保できるか、検討してほしい。また、本センター職員の緊急支援チームの派遣は、所員の身体的疲労などを考えると限界がある。むしろ、緊急支援チーム員の養成など、後方支援により、質の高い多くの緊急支援員の養成にあたる方が得策と思われる。
- ⑦ スマトラ沖地震の被害国関係者を対象とした「災害後のメンタルヘルスサービス」研修が2年間実施されているところであるが、現地のニーズと期待が高いことから、更に継続実施することが望まれる。